

珍妃の井戸

ちんぴのいど

浅

珍妃の
ちんぴのいど
井戸

浅田次郎

Asada Jiro

N. D. C. 913 322p 20cm

ちんぴ
珍妃の井戸

一九九七年二月一〇日 第一刷発行

著者 浅田次郎 あさだ じろう

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二-二二-二一 千一二二-八〇〇-一

電話 (〇三) 五三九五-三五〇五 (編集部)

(〇三) 五三九五-三六二二 (販売部)

(〇三) 五三九五-三六一五 (製作部)

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 黒柳製本株式会社



定価はカバーに表示してあります。

落丁本、乱丁本は小社書籍製作部までにお送りください。
送料小社負担にてお取替えいたします。なお、この本に
ついてのお問い合わせは文芸局文芸図書第二出版部あて
にお願いいたします。本書の無断複写(コピー)は著作
権法上での例外を除き、禁じられています。

© HIRO ASADA 1997 Printed in Japan

ISBN4-06-208933-5(文2)

目次

第一章 載沢殿下の舞踏会 7

第二章 誰が珍妃を殺したか？
ニューヨークタイムズ駐在員
トーマスE.バートン氏の証言

41

第三章 老公胡同
ラオケンフートン
元養心殿出仕御前太監 蘭琴氏の証言

74

第四章 梟雄
きょうゆう ゆう
直隸総督兼北洋通商大臣兼北洋常備軍總司令官
袁世凱將軍の証言

107

第五章 魔宮からの招待状
光緒皇帝側室 瑾妃殿下の証言

I40

第六章 現場検証
水和宮首領太監 劉運焦氏の証言

I74

第七章 小さな悪魔
魔太子 愛親寛羅溥儀氏の証言

209

第八章 天子
サンネオブ・ヘブン
277

装幀 多田和博

写真 松岡茂樹

COSMOS ACTION PHOTO LIBRARY

珍妃の井戸

ちんぴのいど

第一章 載沢殿下の舞踏会 一九〇二年（光緒二十八年・明治三十五年）

光栄ですわ、閣下。大英帝国海軍の提督アドミラルともあろうお方にメヌエツトのお相手をしていただくなんて、まるで夢のよう。

しかも今宵は、いったい何年ぶりの舞踏会でしょう。

アン、ドウ、トロア——そう、かれこれ四年にもなりますわね。あの天地をひっくり返すようなひどい政変があつてから。

皇帝陛下と若い官僚たちの理想が、あの一八九八年に成就じょうじゆされたのなら、北京ペキンもこんな焼け野原にならずにすんだでしょうし、舞踏会も毎夜のようにこの載沢殿下の御殿で催されていたはずですわ。

光緒陛下の維新政府がたった百日間でだめになり、また西太后せいいたいじうさまの古めかしい世の中に逆戻り。さすが西洋かぶれの沢殿下たくも、お小さいころから兄君のようにお慕こいでいた皇帝陛下が南海の離れ小島に幽閉され、親しかった改革派の官僚たちがみな殺されてしまったのでは、

まさか舞踏会どころではなかったでしょう。

ごらんなさいな。沢殿下ときたら提督のことをものすごい目で睨んでらっしゃる。

でも、どうかお気づかないく。べつにわたくしは殿下の恋人ではありません。あちらが勝手にそうとお決めになっていらっしゃるだけ。

わたくし、ですか？

さあ、今宵は何と名乗っておきましょうか。ちなみに社交界の皆様からは、ミセス・チャンと呼ばれております。そのさきのご詮索は不粹というものですわよ、提督。

英語は洋務学者だった父から習いましたの。フランス語とドイツ語は天津の租界で。おかげさまで通辞のかわりができますから、まだほんの子供のころから公使館員のお嬢様方と一緒に、舞踏会に招かれました。

韃靼族か漢族かって——それもどうでもよろしいことでしょう。タルタルが清国を建てたのは二百何十年も前のことで、今では顔も言葉も同じです。ではわたくしから逆にお訊ねいたしましょうか？

サー・エドモンド・ソールスベリー提督。あなたはスコッチですか、それともブリテイッシュですか？ ね、愚問でしょう。

アン、ドウ、トロア——それにしても、二年前のあの義和団の事件は、ひどいものでした。都是丸焼け。いったい何十万人の人が命を落としたか、わかったものじゃない。おまけに外国の軍隊がどつと入ってきて、掠奪のし放題。西太后さまも皇帝陛下も、とつと西安に逃げ

ておしまいになるし。

その点、載沢殿下はご立派でしたわ。満洲皇族であのとき都にお残りになったのは、殿下だけではないのかしら。もっとも舞踏会のおかげで外国公使や軍人たちとは仲がおよろしかったから、逃げるよりも居残っていた方が安全だとお考えになったのでしようけれど。

結果として、正しいご判断でしたわ。からっぽになった他の王府はみなひどい掠奪を受けましたけれど、沢公府はごらんの通り。ご自慢の英国製の馬車も、ちゃんとそのままです。

でも載沢殿下は少々お悩みのご様子。ほら、またいらいらとパートナーをお替えになつてらっしゃる。

お悩みの種は、べつにわたくしのことではございませんのよ。西太后さまがご指名になった皇太子溥儀殿下が、義和団をけしかけた罪で追放となつたために、沢殿下ががぜん注目的になつておりますの。

ああ見えても鎮国公載沢殿下は愛親覚羅家の正流。高宗乾隆帝の玄孫にあたられますのよ。今上陛下とはまたいとこの間柄ですから、ご年齢の差からしても次の大清国皇帝に即位なされて何のふしぎもありません。

あとは外国かぶれという点を、西太后さまがどのように評価なされるか。もっとも当のご本人はそのようなことになつてはたまつたものではないと、皇太后宮からお呼びがかかるたびに仮病をおつかいになつていらつしやるご様子ですけれど。

ああ、そうですわね。もしそのようなことになつたあかつきには、わたくしも後宮に召され

て、妃嬪ひひんに列せられるかも。長い人生、それもまんざら悪くはありませんわ。

アン、ドウ、トロア——すてきですわ、提督。今宵はずいぶんと酔よめつてしまいました。葡萄酒ぶどうのせいではなく。

ところで、聞くところによれば提督閣下は、八カ国連合軍の掠奪の実態を調査なされるために来華なされたとか。

どうか徹底的にお調べ下さいましな。

さすが大英帝国議会はリベラルでらっしゃる。心から敬服いたします。また、そのような大任を女王陛下から仰せつかったソールスベリー閣下のご人格を、わたくし、心から尊敬いたします。

人は人のものを奪つてはなりません。人の命の重みは、みな等しくなければいけません。英国流のリベラリズムとは、つまりそういうことですね。

あのときの八カ国連合軍の無法ぶりといったら、それはそれはすさまじいものでした。北京が陥落したその日から、むこう三日間のあいだ掠奪自由という指示が各国の軍隊で出されましたの。

あら、ご存じない！

わたくし、出まかせなど申してはおりません。少くともドイツ皇帝ウイルヘルム陛下は本国から、「支那人は野蛮人として扱つてよろしい」という訓令をお出しになりました。野蛮人だから奪つてもよい、殺してもよいという理屈は、あまねく人の道に反しますわよね。

他の七カ国については、そのような指示があつたのかどうか、いずれにせよ公然と掠奪暴行を將兵に許していたことはたしかです。

ドイツのワルテルゼー元帥。そもそもあの悪魔のような男を八カ国連合軍の總司令官に選んだのが大きな誤りです。

だつて、お考えになつても下さいましな。

兵隊のあたま数でいうのなら、断然日本の將軍が指揮をとるべきでしたわ。でなくとも、清国に対する権益の量からいうなら英国。あるいは宗教的な大義からすると、布教の伝統を持つフランスでも理には叶かないます。ロシアも国境線を持つ隣国という点では資格があるでしょう。

ドイツのワルテルゼーが總指揮官となつた理由はつまり、公使を殺害されたという被害事実だけを重く見たのでしょう。これでは無法な報復が行われることは、はなからわかりきつていたでしょうに。

彼らがドイツ皇帝の訓令をうけてまつさきに乱暴を働き始めたものですから、各国軍隊はみな右へならえ。アメリカもイタリアもオーストリアも、兵隊たちのしたことはどれも同じです。

アン、ドウ、トロア——お顔の色がすぐれませんわね。わたくし、何かお氣きに障さわることも申しておりますかしら。

ワルテルゼーのせいにするのはよしましょう。あの老いぼれ將軍が總司令官に選ばれて北京にやってきたのは、事変から二カ月もたつてからのことです。ドイツ皇帝の命を受けて、地球

の裏側から「野蛮人として扱え」と命令を下していたのはたしかですけれども。

ともあれ八カ国連合軍は、その軍紀のよしあしにかかわらず個人的な掠奪を続けました。彼らは自らが犯した婦女子を拐^{きさら}つて、袂背胡同^{ビヤオベイトン}に慰安所をこしらえましたのよ。

信じられますか？ 貴賤もとわず老若もとわず、女とみれば片っぱしから慰みものにしてしまったのです。で、乱暴を働けない気の弱い兵隊とか、ここに至っても神を信じている兵隊まで、袂背胡同^{ビヤオベイトン}に女を買いに行つた。こうなると、もう誰がどうのではありません。義和團事件に派遣された八カ国の将兵全員が共犯者ですわ。

わたくし、直隸總督^{ちよくれいそうとく}の裕祿閣下のお嬢様方とは幼なじみですの。お父上が敗戦の責任をとつて北京郊外の楊村^{ようそん}で毒を仰がれたあと、七人の美しいお嬢様がいったいどうなつたか。

直隸總督^{ちよくれいそうとく}といえば、河北^{かほく}の太守。地方官の權威が強大なこの国では宰相にも匹敵する大官です。しかも太祖努爾哈赤^{ヌルハチ}以来の満洲貴族。そのように貴顯^{きけん}の七人のお姫様までもが、あろうことか袂背胡同^{ビヤオベイトン}に連れ去られ、獣のような兵隊たちの慰みものにされてしまったのです。もちろん広大なお邸も徹底的に掠奪され、焼き払われました。

アン、ドゥ、トロア——ソールスベリー閣下。モーツアルトは好きですか？

このように美しい音楽を作る西洋人が、あんな鬼畜にも劣る所業をくり返したのはなぜでしょうか。モーツアルトの音楽は西洋の文化など何ひとつ知らぬこの国の人々の心を、何の理屈もなくうつつりとさせますのに。

カトリックの北堂^{ほくどう}をご存じですか。事変の初めのころ、義和團員^{ギョクワザン}たちが殺到して、あそこは

ひどい激戦地になりましたのよ。

北堂にはファヴィエ神父というご立派な司教様がおいでになります。ほんの若いころに北京に赴任されて、ずっと流民たちに施しを続けられ、孤児たちの面倒をみていらつしやるお方です。布教などは、実はあの方にとっては二の次なのです。毎日毎日、よるべない人々のために施しをなさり、教会の奥庭にあるガラス工房で孤児たちに将来たちゆくための仕事を教え、日曜日には礼拝よりもまず、美しいコンツェルトを奏でて、貧しい人々の心を癒しておられました。

・義和団の標的となったカトリック信者は、みな北堂に逃げこみましたの。わずかなフランス兵とともにカテドラルにたてこもって、ファヴィエ神父はライフルをお執りになられたそうです。

彼らもまた貧しい流民には違いない義和団員たちを、狙いさだめて撃ち倒しながら、神父様はずっと聖言を唱え続けておられたそうです。

わたくし、連合軍によって北京が陥落しましたのち、男のなりをして北堂を訪ねましたの。

孤児たちのなきがらを焼けあとに並べて、ファヴィエ神父は天を見上げたまま泣いておられました。ひとことの祈りもなく。

祝福をお与え下さい、とお願いますと、あのふくよかなお顔をひきつらせて、ぽつりとおっしゃいましたっけ。

ミセス・チャン。私はもう、神を信じない。この子らがいったい何をした、と。

そして祈るかわりに、お得意のヴァイオリンですつとモーツァルトを弾き続けておられました。夕映えの中で嘆きながら弦をたぐる神父のお姿は、忘れようにも忘れられませんわ。

アン、ドウ、トロア——閣下、どうか目をお上げ下さい。敬虔なるキリスト教徒であらせられる提督閣下には、少し悲しすぎるお話でしたかしら。

ひとつだけ、ご忠告いたしておきましょう。

ソールスベリー閣下が、どれほどのお心がまえでご着任になられたか、その正義感と責任感のほどはこうして間近にお顔を拝見しているわたくしにはよくわかります。

閣下は心のそこから、事変のさなかに起こった非人間的な行為の数々を、神の御名のもとに、あばかれようとなさっておられます。

しかし、それは無駄なことなのです。

ひとつひとつの見聞きした悪行を今さらどのよう調べ、かつ裁こうと、それは神の名と人の道とを恢復することには決してなりません。

だって、お考えになっても下さいましな。

義和団員たちの反乱はそもそも愛国心から発したものですわ。だからむしろ、彼らを鎮圧しようとした袁世凱は、列強におもねった不忠者です。

結局は官軍のほとんどが義和団に合流してしまい、なしくずしに西太后さまは世界中に対して宣戦を布告なされた。

そのことが国家の威信を賭けた聖戦であったかどうか、あるいは単に、外国人とキリスト教